

会議名 (審議会等名)		川西市都市景観形成審議会		
事務局 (担当課)		まちづくり部 まちづくり政策室 都市計画課 内線(2921)		
開催日時		平成20年3月21日(金) 午前10時～ 午後0時		
開催場所		川西市役所 地下1階 B01会議室		
出席者	委員 (敬称略)	多淵・安食・太田・岸本・永井・光岡		
	その他			
	事務局	常城・高橋・酒本・向・萩倉・住家		
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0 人	
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>議題</p> <p>(1) 平成19年度の取り組み状況について(報告)</p> <p>(2) 「ストックした景観情報を活用した、地域レベルの景観まちづくりについて」</p>		
会議結果				

<p>事務局</p>	<p>(開 会)</p> <p>お待たせいたしました。</p> <p>定刻になりましたので、ただ今から、平成19年度第1回川西市都市景観形成審議会を開催させていただきます。</p>
<p>(部 長)</p>	<p>(あいさつ)</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>私、本日の司会進行をさせていただきます、まちづくり部まちづくり政策室長の高橋でございます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>始めに、本審議会の委員をご紹介させていただきたいと思います。</p> <p>(委員紹介)</p> <p>続いて、事務局の紹介をさせていただきます。</p> <p>(事務局紹介)</p> <p>以上で紹介を終わらせていただきます。</p> <p>ここで、委員の出欠について報告させていただきます。本日は【6名】ご出席いただいておりますので、川西市都市景観形成審議会規則第6条第2項の規程により、本日の都市景観形成審議会は成立したことをご報告いたします。</p> <p>それでは、まず最初に多淵会長より開会のご挨拶を申し上げます。 多淵会長、どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>議 長</p>	<p>多淵でございます。</p> <p>川西市の景観形成審議会というのは、ここ最近、年1回というのが続いています。景観行政団体にもし名乗りを上げますと、そういうわけにはいかないと思います。それをどういうふうにするかは、市のお考えでございます。</p> <p>最近、中核市を目指すところが多くなり、中核市になりますと自動的に景観行政団体になります。私も姫路市でその関係をしております。また、西宮市が平成20年度に中核市となり、1年遅れて尼崎市がなります。西宮市の都市景観形成審議会に長く携わっておりましたが、今年度で定年となり、任期</p>

議 長	<p>を終えました。尼崎市にも同じように携わっており、定年で任期を終える予定でしたが、任期が3年の臨時委員としてその部会長にも任命され、引き続き携わることとなりました。すぐ隣の伊丹市は、景観行政団体に名乗りを上げて動いております。できれば、法律をうまく利用しながら美しいまちづくりのために何か役に立つ方策を考えていく方がいいのかと思います。本日は、議事次第に従って進行させて頂きませんが、皆さんのお知恵を拝借しながら進めていきたいと思っています。</p>
事 務 局	<p>ありがとうございました。 では、これより議事進行につきまして、多淵会長にお願いしたいと思います。</p>
議 長	<p>それでは、本日の議事日程に従いまして議事を進めさせていただきたいと思います。本日の議題は「平成19年度の取り組み状況について」の報告と、「ストックした景観情報を活用した地域レベルの景観まちづくりについて」ということでございます。詳細説明を事務局の方からお願いします。</p>
事 務 局	<p>(事務局説明)</p>
議 長	<p>事務局の報告でございましたが、この報告に関しまして何か、ご意見・ご質問等はございませんか。</p>
事 務 局	<p>会長、少し補足説明をさせて頂いてよろしいでしょうか。都市計画課長をしている酒本と申します。説明の中で触れさせて頂きました、次第の最後のページのA4横の「景観施策の推進について」のフローの図についてでございます。平成5年度に景観条例を施行して、ずっと大規模建築物の審査とか色彩の指導をしてきましたが、大規模建築物を表彰したりとかは、時代が変わってしまって、今はあまり事例としてはございません。そこで、18年度からはもう少し視点を変えて、市民に身近な景観を掘り起こそうと、そして、それを施策として役立ていくということで、このフローを作ったこれに基づいてやっているという視点がございます。そして、写真をまず募集させて頂きまして、写真展をすることによって広く市民に公表して、公民館が10館あるんですが、その公民館の守備範囲に分けさせて頂いて、その地域の方々に見ていただくということを繰り返し2年間実施してきました。</p> <p>次に、本日配布しました写真展のアンケートについてでございますが、この中の設問2の「景観資源について」ということが今年度初めての新たなものです。これは、応募のあった写真を景観資源として位置づけをして、「これらの景観資源を主に誰が守り育てるべきか」、住民なのか、行政なのか、あるいは、住民と行政との役割分担とするのかをまず聞いています。</p>

事務局

2点目に「これらの景観資源を守り育てるために、地域のワークショップや勉強会、講演会を開催した場合に参加したいか」ということを今年度新たにお聞きしました。その結果が資料A3横のペーパーです。アンケート集計の一番上の「景観資源を誰が守り育てるべだと思うか」ということに対して、「地域住民がやるべき」が12.3%、「行政がやるべき」が7.1%しかなくて、「地域住民と行政の役割分担で守り育てるべき」というのが、実に72.6%もありまして、住民側も景観はもう行政だけに任せるのではなくて、自分達も一緒にやっけて行くべきであるという意識の表れと思われまます。

次に、その下の段にある「景観資源を守り育てるために地域で景観ワークショップ等を開催した場合に参加したいか」とお聞きした時に、「積極的に参加したい」が8%、「参加しても良い」が54.7%、「参加しない」が9.6%であり、その他の回答としては、「参加したいが仕事が忙しくていけない」、「高齢でしんどくていけない」等であり、「積極的に参加したい」と、「参加しても良い」を合わせまして62.8%もありました。かなり、関心としては高いのではないかということ进行分析いたしまして、それで、先ほど説明しました。来年度（20年度）からは、これらの景観ストックをツールに地域全体でするのは難しいとは思いますが、そういう景観ワークショップ等を開催しながらさらに地域住民の皆様に景観というものを掘り下げて頂けたらというようなことを考えておりますので、どんなやり方をしたらいいのか、他市のこんなところでこんなことをしているというようなものも含めまして、いろいろご意見等をお聞かせ頂けたらということが、ひとつ大きな本日の目的でございます。

議長

はい、ありがとうございました。良くわかりました。アンケートの結果を見ますと、「地域の市民と行政の役割分担は、一緒にやろう」というのと、「地域住民がやる」というのを併わせると84%にもなり、ほとんどの方がそう思っており、市民参加というそういう方向が根づいているという感じがいたします。

また、ワークショップというものをやることに対しては、63%近い人が「参加しても良い」ということですので、これはもう積極的に来年度は、やるべきということですね。「年をとったから参加できない」というようなことではなくて、年配の方でも参加できるような仕組みを考えて、全市を一度に廻るのは大変ですので、ずっと廻るのは健脚な人でもしんどいので、地域ごとにワークショップをこまめにやる。しかも、いい時期にやる。春先の花のきれいな4月から5月の始めにかけてやるとか考えて、ピクニックのあと、どこかの公民館などに集まって、ワークショップをしたら非常に効率が

議長	<p>良いと思います。寒い時などは避けて、しかも季節の良い（土）・（日）を使って市民の意見を聞きながら、いつごろ、どういうふうにしたら良いかを公民館によってやり方が変わってもいいから、まずやってみることでですね。</p>
委員	<p>今のお話に関連して、ほぼそういう視点であります。このアンケートの結果の下の方を見ますと、回答者の属性が出ていまして、女性が70%、男性が25%です。それから、年代では、60歳以上が52%。ただ若い世代、働く男性がほとんど入っていない。景観を共有化して、市民のものとして、そこから、まちづくりを作っていくことになるのですが、そういう人達の声をどういうふうに積み上げていくのか。プレゼンする時にもやる場所や時間帯も工夫しておかなくては。特定の人、結果的には、若い人、熟年など違うことになっていたかも知れない。そういうところから、開催する場所・時間・やり方を工夫してみる必要がありますね。若い人が積極的に来てくれましたらいいのに。しかも、女性は毎日川西を見ているが、男性も参加できる仕組みを作り、初めからうまいこといかないかもしれないが、いろんなことを1年間やってみる。ピクニックなどでいい所を発見して、どうしようかというような話になったら、その時は、ボランティアで参加しますから、声をかけて下さい。お願いします。</p>
委員	<p>僕は、実はまちづくりとか、景観ワークショップのプロなんですけど、先週も明石のなりわい地区でのワークショップをしていました。明石市には、たまたま明石高専というのがありまして、学生さんが6～7名来て頂いています。特に女の子の方が非常にフランクに発言するので、「ワーきれいね！」とかやっぱりまち歩きしていても華やいで楽しいですね。明石のなりわい地区でも、やっぱり60歳代が中心になり30～40名でやっている。ただ、性別は男性が3/4、女性が1/4で、川西市とは違っていています。それに明石高専の女の子の参加です。</p> <p>それから、ワークショップは、結構難しくて事務局は計算していないと大変な事になります。うちの事務所の方は、年間10回ぐらいやっており手慣れています。ワークショップをうまく進めるポイントは、いかにファシリテーターが上手に指導するという事。それから参加人数がポイントです。最終的には、7～13人ぐらいの人が車座となってワイワイやりますが、車座が4人では寂し過ぎ、20人では多すぎて発言が出来ない。10人前後が何グループか出来ることだと思います。上手に30～40人を1つのイベントに参加させることで、参加人数の工夫が非常に大事であり、100人も集まったらワークショップではなくて講演会になるだけです。全員がフェイス・トゥ・フェイスで参加出来るということで、A1ぐらいの紙に指さしながら喋る。戦略的に</p>

委員

は、上手に地域を選ぶ。明石でも寒い時は避けて、先週と先々週、続けてワークショップをしました。

川西市は、広いのでワークショップだけでも全市（土）・（日）で廻るとすれば10年ぐらいのネタはあるので、どういうふうに絞り込んでいくかということが非常に大切です。明石でしていたのは、1日中はしんどいので、午後から地区の公民館などに集まっていたいて、当然地区の人が多いのですが、明石高専の人や伊丹の人もおり、明石市内の高校の先生も一般応募で参加して、こんなに勉強になったことはないと感じていました。当然、事務局の準備は大変ですが。

議長

私は、別件で川西市のバリアフリー新法の関係で、一日小雨の日に参加しましたが、結構皆さんうまくやっていました。素人は素人なりにうまくやっていました。私なんか、鼓が滝から多田の駅まで歩いて、その結果をワークショップするものでして、中には、電動車イスでかわいいお嬢さんが1人いてくれたのと、盲導犬連れの目の不自由な人、耳の不自由な人、高齢者の人、障害者の人と一緒に歩いて、ダイエー、イズミヤと歩いて、ワークショップして、そして、それぞれ皆さんが役割に基づいて意見を述べて非常にうまくやりました。

私も大学で学生達に同じ様なことをバリアフリーのワークショップ形式で学校の周辺を車イスでいきなり廻ってもらいましたが、非常にうまくやってくれまして、問題点と解決点をセットしてレポートしてくれました。今度の都市景観の問題としてワークショップをするということには、少し工夫がいることとなりますが、良いところと良くないところをどうするかということに話を絞ってやってもそんなに怖いことはないと思います。いずれにしても一度是非やってみて下さい。やれば、市民の方も結構乗ってきます。学生さんたちが感激的なことを結構発言してくれるので、岸本先生が今言われている、堺のまちづくり探検隊をうまく入れ込むのです。今日、池田先生が来られていませんが、羽衣国際大学の学生をうまく入れ込んで。学生さん達は、引っ込み思案の人でも自然に発言できる。僕らプロがしかけるよりも非常にうまくいっている。宝塚造形芸術大学にもうまく働きかけて、参加してもらうとかそういう工夫はいろいろあると思います。老人会にお願いしたら、絶対に頑張って来てくれることは間違いありませんし、婦人会にもお願いするとか、いろんなことをしたら。最近、日本人は、自己を表現するとかそういうことがわりに上手になられていますので、もう一度そこで発言して、自分の意見が皆の賛同を得たら、そういう機会があれば、発言しようかと考えてくれます。是非来年度は、実際に景観計画を立てるところまでいかなくは意味がないのであって、特に皮革工場が無くなって、火打をどうするかというようなみたいなことを本当はこういう中で、どういう景観として作り上げ

<p>議長</p>	<p>ていくかということについても、景観の立場での意見を市民の立場で早いことやっていた方が良いのではと思います。学識経験者がいろいろ考えてくださると思います。市民の本当の思いがどうなのかということをごらんで、景観という切り口、立場でどうなんであるかを市民の立場で聞いてみるのも大事なことと思う。</p> <p>これまで、役所は、市民の意見というのは圧力団体として市民の意見を聞かれることが多かったと思うのですが、そうではなくて、積極的に参加を求めたら、市民も当然行政の立場を十分理解してもらえますので、是非とも来年度は、次のところへノウハウをもっていき、なるべくこういう試みを沢山頑張ってもらいたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>一庫ダムにゴミがいっぱい来る。それを毎週土曜日に民間が船を出して、掃除をしている。流木などであり、タイヤや流木が山積みになっており、焼却処分するにも燃料代が高いので学生達に協力を求めてこの流木を使って流木ペインティング大会をすることを考えた。ペンキ代は、あるスポンサーが協力してくれました。夏休みの課題にも使えるという事で7月29日に実施し、幼、小、中学生など130人ほど集まり、ペインティング大会を実施した。これについては、ダムの所長と随分検討しました。また、我々が司会をしても面白くないので、司会も人気のあるおもしろい人を選んだ。私が審査委員長をしました。注意事項として親は口を出さず、親も手伝ってもよいことし、親子共々楽しめました。企画を考えれば色々出来ることがわかった。その結果出来たものを玄関になど飾りたいという希望者が沢山出てきまして、貸し出しもしました。市役所の玄関ロビーにも展示されました。</p> <p>それと、ダムのボート置き場の塗り替えの仕事を聞いたもので同じやるんだって何か変わったこと、おもしろいことをしようということを考え、ダムになまがいのので、それを代表として楽しんで貰おうとして、ダムの職員や近所の子供たちに絵を描いてもらいました。市長と議長にも描いてもらいました。</p>
<p>議長</p>	<p>それが写真集のP12に載っており、「川西の新名所に」と書いてありますね。どうぞ、いろんな知恵を働かせて、市民参加の催しをワークショップだけでなくでもいいですからよろしく。</p> <p>安食先生の流木ペインティングの話聞いて、私、昔、文化的まちづくり懇話会の活動において、何年か前に、たとえば、市民が参加して文化的なことにお金をかけないでという話がありましてね。その時の話ですが、子供達、若い人、高校生や大学生が、わがまちを再発見しないと新しい時代に繋がら</p>

委員

ずお年寄りのまちみたいになって、広がっていかないように思いますね。文化的なこと、例えば、流木を知らなかったのですが、多田神社前に草ぼうぼうのところがありますよね。ところが、その前に岩がいっぱいありましたので「市民が参加して岩にペイントしたらいかがですか」と思いついたことがありまして、「どうですか」とお話したことがありまして、「アートがすごく自由に発想出来る文化的なまちづくりはどうですか」と過去に提案したことを思い出しました。また、石を集めてストーンペインティングをして、大変楽しく喜んで頂いたことがありました。安食先生の流木ペインティングを見て違った意味のまちづくり、景観というか新しい新名所になるのでは。地域の桜がきれいとか、観光案内はもちろん大事ですが、違った意味でのまちづくりや景観に繋がると思います。また、本来は中学生や高校生だけの若い人のわがまち再発見や景観審議会があっても良いのではと常々思っています。

まず、このアンケートご意見を全部見せて頂いて、一番最初に思ったのは、やはり女性の方が非常に多いということと、各地区を見ますと、実態として「ハイキングで歩いてみたい」というのが多かったので、まずハイキング、それからワークショップへともっていくのが、最初の取っ掛かりとしてはいいのではと思います。あと、絵葉書にしたら良いのではというのがございました。私もこの都市景観形成審議会の委員と一緒に総合計画の委員もさせて頂いており、この委員会での景観に関しても、大学の御専門の先生4～5人から委員会が始まったんですが、だんだんと委員ばかりでやっていくよりも、もっと広く市民の声を聞くということで、市民部会にも広げようと。それで4～5年やっています。その市民部会というのは、夜の7時から始まりまして、さっき大田先生が言われましたように7～8人のグループが10個ぐらいに分かれまして、まずいろんなことを話し合い代表が発表して、その後、多淵先生や久先生のような御専門の取りまとめの先生がおりまして、夜にも係わらず非常に働き盛りの男性も女性も多かったし、川西市の住民意識の高さにビックリしました。また、総合計画の委員に一番最初になった時、川西市を見てほしいということになり、その時、市民も一緒に市内をバスで廻ることとなり、その時市民の応募が非常に多くてすごい倍率の中で一緒に見て廻り、市民意識の高さを感じました。アンケートの結果からもわかるように、そういうことが定期的に行われると話し合いが企画なしでも進められるようになり、きっと集まると実感しています。まず、とっかかりは、そのハイキングのようなどころから入ってペインティングの企画も進め、それから、きっちりとしたワークショップを間に入れていくと。

岸本先生は、川西市の非常にきれいなところに住んでおられるますので。ハイキングも良し、ペインティングも良し、いろんなことを企画されたら、きっと川西の方が世代を通じて参加されることが高いところなので、市民部

委員	<p>会のような形で7時以降ワークショップ・トーキングコーナーを設けられると、働き盛りの男性もきっと入ってこられますと私は思います。まず、とっかかりとして気候の良い時にハイキングみたいな具体的なことを考えていらっしゃいましたら。本当に大変なこととは思いますが。</p>
事務局	<p>ハイキングについては、川西再発見というNPO法人が立ち上がっておりまして、この写真展は、この人達の全面的な協力を受けて、運営・実施しています。彼らは、川西には寝に帰るだけでのサラリーマンであった人達が、レフネックという市民講座があり、そこで学んだ人達が川西を再発見しようと、そういうふうな活動をされておられるところがありまして、たまたま、そのグループの中には、元毎日放送のカメラマンがおられたり、アナウンサーの方がおられたり。市民で作るビデオなんですけど、プロが作ったみたいな仕上がりになっていましてね。そういうふうな活動をされておられるところがあります。その方々が、おにぎりハイキングということで、川西をもっと知ろうということで、緩やかな活動をされています。そのへんの活動に、是非、我々の写真の景観ストックをチョット盛り込んで頂いて、実際に歩いて頂いて、何時間かかかったとか、この写真展を基にしたハイキングコースが出来るんじゃないかなあというような、そういう構想はもっています。絵葉書についても昨年度から考えていますが、きっかけが難しくて、ハイキング部会、絵葉書部会として投げていってもいいのではと考えています。たとえば、宝塚造形芸術大学の学生が入って頂きますと、アイデアはどんどん広がっていきますし。</p>
委員	<p>接点をうまくすることですね。</p>
事務局	<p>ええ、バッティングするところはバッティングして、なかなか我々だけで卓上で考えていると、ろくな発想は出来ませんので、出来るだけそういうような知恵をと考えております。絵葉書とかについても、昨年と同じ様な意見を頂いて、何も手出し出来ていないんですけど、やっぱりきっかけ作りが非常に難しいというか。構えてしまっ。今のお話ですとそういうような、例えばハイキングコース部会とか、絵葉書部会なんかをストックする景観情報を基に市民の人にも考えてもらうということを投げてもいいのかなあという気がしたりしています。紙代とか印刷代はしれていますので、それは我々の方でやるとして、アイデアというようなことで、例えば宝塚造形芸術大学の学生などが入って頂ければ、どんどん発想が増えていくでしょうし、そういうような仕掛けが必要なのかなあという気はいたします。</p>
議長	<p>川西には、文化財も一杯ありますからね。そういうのを教育委員会の文化</p>

議 長	<p>財担当者と連携して、一緒にそのメンバーも歩いてもらうとか、そういうことも含めて、要は来年度は、アクションを起こすこと。市民に向かってその事を決めて頂いたら。どういう型になるか、それは別で、あの何べん出来るかはいろんな条件があるとは思いますが、とにかく、いっぺん春先ぐらいに何かやってみる。市民参加でやってみる。そういう行動をまず起こしていくことでしょうね。また違う展開が良い方向に絶対に良い方向にしか動かない。悪い方向には絶対に行きませんから。安心して市民を信じて。本当に。結構来られますよ。</p>
委員	<p>先ほどからこの写真が景観資源ということで、あんまりここは意識しない方がいいと思うんですよ。別の方が、同じアングルで私も撮っちゃうかということで市民の輪が広がる方がいいんです。むしろ、この写真のアングルというのが、ここにこういういい所があったなあということのきっかけ作りやと思った方がいいと思うんです。また、別の方が、「あのアングルで、私も、もうちょっとカッコイイ写真を撮ってやろう」と言っているほうが良いのかなあと思いますね。毎年毎年、別の方がそういう景観に目覚めるといって、そういうことが広がっていくといいですね。</p>
事 務 局	<p>第1回の写真展でも実は、感じているんですね。嬉しかったのは、「この写真はどこですか」と聞いて頂いたこと。急遽地図を作りました。一度もないです。お叱りを受けたというのは。</p>
議 長	<p>それは、よいことじゃないでしょうか。</p>
委員	<p>景観の大切な言葉が「視点場」。景観っばい、ものすごく一つのねらい目なんです。あの場所がきれいというわけでなくて、ここから見るといって「視点場」というものがすごく重要です。私がお手伝いしている「街なみ探検隊」のみなさんが、どんどん悪のりしましてね、市民まつりでブースを出そうやないかと。市の方もそこまでのこととっていなかったから、かなり慌てられたけど、「それはいい」といって、本当に手作りで「街なみ探検隊」の成果を市民まつりでお預かりして、パネル展示をしたんですわ。自分達で、「ここ、こういう道を歩いたらいい」、ということをして市民まつりで発表しました。それは別に仕掛けたわけじゃなくて、うまく、どんどん発展していったんです。そういうところまで発展していけば、具体的で結構なことだと思うんです。</p>
委員	<p>川西に市展というのがあるのね。僕は第1回目の審査員やってたけど、フ</p>

<p>委員</p>	<p>ランスの絵が出たり、出品者が他の展覧会に出したやつをまた出品したり。展覧会に応募して落選した作品は、裏を見たらわかるから。落選したものを出したりすればいい。そういうものを何か今度、今すぐというとあれやから、来年ぐらいからやればいい。川西の市内にはこれだけいっぱい良い所あるし、お祭りごとでもいいから。川西の風景や、川西に関係ある絵が出るようになると、写真展と似たようなところが集まる。今度、社会教育の人と考えてそういう企画を出されたらどうですか。</p> <p>池田市展とか伊丹市展とかいろいろあるけど、川西は川西の独特のやり方でいいわけだから、パリやイタリアの風景見たってしょうがない。川西の良さを出そうとしている。そういうのにはどんどん賞を出す。それは書道でも何でも川西に関係ある賞。大きい彫刻でも、何かそういうイメージしたやつを出品したら見ている方がおもしろい。</p>
<p>事務局</p>	<p>これは人気投票というか、優劣つける目的ではやっていないので。表向きには聞いてないんですが、気に入った写真を実は投票してもらって、その結果、たとえば上位5点を市展に出すとかそういうのも良い……。</p>
<p>委員</p>	<p>写真は、個人で出したらいい。</p> <p>出した人も、市展に出そうという発想はたぶんないと思うからおだてて、今度出してもらったらいい。写真は展示する場所が限られているから、せっかく出しても落選ということもある。</p>
<p>議長</p>	<p>展覧会で落選したものから、新しい芸術の展開が始まるということもありますから。通ったやつと、落ちた全部を集めて「川西市風景落選展」みたいなものやったっていい。話題性は出てきますしね。</p>
<p>委員</p>	<p>「印象派」ってそうなんですよ。何か「印象派」って、落選を集めてやった時が第1回だと。</p>
<p>議長</p>	<p>いろんな発想してやってみるということですね。1つだけお願いは、ピクニックの時……。私ね、学生の時から自然の中を歩こうと思いついていない。満願寺から多田神社まででもいい。もともと何で飛地なんやという話も含めてね。この中にも多田神社と満願寺の写真がありますから。それも是非とも今年。ピクニック・ワークショップまで繋がらなくてもいいから。それはもう、ひたすら歩くだけでもいいんですけど、そういうのを市が推薦する景観として企画して頂いて、市民も募集して、おにぎりは全部自分で持ってこいと。多田神社に集合。逆に満願寺に集合して多田神社まで行きまし</p>

議 長	<p>ようと。それで途中で坂田の金時をまちづくりにせいと言われますので。なぜ金時かよくわかりませんが、頼光というようなことでもかまわないと思う。案外歩いている人、少ないですね。昔は当たり前だったりした。ピクニックの人と同じコースにそれを入れて頂いて。その時は私も絶対参加させて頂いて、季節の良い時ですよ。寒い時とか真夏だったらえらいことですよ。</p>
委員	<p>川西の市展も見に来る人は少ない。2月の寒い時だから本当に見てる人は出品者とか親戚関係・親族ぐらい。</p>
議 長	<p>いろんなご意見が出ましたけど、参考にして頂いて、具体的に一度やってみるということをお願いをしたいと思います。</p>
事 務 局	<p>そういう具体的な取り組みを通して、市民側の景観に対する意識の醸成を作りながら、我々としては景観計画というのを、その中からきっちりと立てて行くことが求められているのかなあと。ですから、市民の方を巻き込んだイベント的な事をやりながら、その行き先というのは、そのうち計画の方は、それに向かってみんなで同じベクトルに立ってというようなことを、我々は考えて行かなければいけないと思うんですが、そのための写真展であり、今後のワークショップであり、ハイキングだったりすると思うんです。そのへんの活動から景観計画に反映させる、そのプロセスがちょっと我々ではなかなかイメージできなくて。実は西宮市さんが、中核市になる関係で、景観行政団体で景観計画を作られました。コンサルタントさんに委託して、計画はできるんですけど、それって市民の方に響いていかないと意味がないと思いまして。西宮市の職員の方が、我々の写真展の状況を視察に来られたことがありました。川西市から西宮市さんに行くのはわかるんですが、西宮市さんが来られるのはなかなかないんじゃないかなと思いつつ。ただやっていることは確かに市民意識の発掘なり醸成で、それは絶対大事だと思うんですが。そのアウトプットとしては、計画に繋げていきたいと言うのがありまして、そのへんの取り組む心構えとか、何か発展系か、何かご意見ありましたらありがたいなあとと思うんです。</p>
議 長	<p>せっかく今日、ここでカラーで景観法の事を載せて頂いているので、こういう説明をされたらどうですか。</p>
事 務 局	<p>まず景観法の必要性を国の立場から述べておられるんですが、景観法ができたのは平成16年です。それまでに川西市では平成5年からですが、自治体</p>

の独自条例である景観条例施行というのが先にあって、その後、ようやく国が動き出したということです。そのイメージとしては、全体的に景観計画区域というのが全体にかかって、あと、景観地区というのは、川西市でいうと、能勢口駅周辺地区というような重点的に具体的な指導基準に基づいて、建築物なんかを誘導する地区、そういうイメージなのかと思います。景観重要建造物とか重要樹木が指定ができる。公共施設も位置づけられます。写真展の発展系でイメージできるのは、景観重要樹木などです。ただ、建物という写真があまりないので、来年度は同じようなスキームでやりつつ、建物についてもう少しピンポイントで募集をかけて紹介してもらおうかなあという気は致しております。ざっぱくイメージとしては国の示すイメージに対して、写真展から育まれるイメージは申しあげた通りです。

次にその裏になりますけど、景観法の支援について。これは国のお金を投入できるということです。まず、景観協議会というものを作ることができます。これは、行政や住民などが一緒に協議を行って景観に関する協議を行う。これが、うちでいう景観ワークショップから発展したらなああと。そこまで行けるかどうかわかりませんが。

下の景観整備機構というもの。これは NPO 法人とかがですね。民間でも景観の整備を担える団体となります。

ということで、とにかく今まで行政ばかりがやってきたものを住民さんも充分巻き込んで、担ってもらえる団体になれるんですよということを定義しておられます。

右に行って、先程の景観計画区域というのを行政なりが決めて協定を結んだりとか、あるいは景観重要建造物や樹木を指定したりとか、都市計画法でいう景観地区に指定したりとか、そういう規制と支援のスキームを作りました、というのがこの法律の大ききなスキームかなあと。

景観計画というのは下に書いているんですけども、これが景観行政団体が景観行政を進める場合の基本的な計画ということです。景観行政団体というのは、川西市の場合、兵庫県知事の同意をもらって認定を受けるんですけど、この団体になるかという、まだまだそこまでの結論には達しておりませんで、とりあえず、とにかく景観に対する計画をしっかりと持って行こうというのが大事なんではないかと。そのアウトプットとして都市計画で定めるか、景観法に基づく行政団体という形にしていくのか、その中できっちり見極めていきたいというふうに考えております。

伊丹市さんは、酒蔵とかというような絶対すぐに守らないといけないような資源があったので、いち早く景観法に基づく団体になられたのかなと思います。

事務局	<p>ますが、川西市としては地域全体をこのような形で景観資源を掘り起こしながら、景観計画に結び付けて、そして、それをどう展開していくかによって、景観法をツールとして使った方がいいのか、あるいは条例をもっと強化してやるのも一つの手かなということなので、現時点で景観法に基づく景観行政団体になるべきだということころまでは、なかなか判断できていないということなんです。</p>
議長	<p>まだ、その判断もう少し待った方がいいと思います。けっこうお気に入りの写真展、これで市民の意向をある程度吸収されてきましたよね。もう少しこれを続けることによって、もっともっと市民が関心を持ってくれる。そういうのを背景にして、実際どの場所をどういうふうに変えていくのか、守るのか、それとも、きたない色のやつを何とかしてくれとか、そういうふうな会話へどんどん繋がっていく手段としてこれをお使いになってるんで、あんまり急いで次の手を考えないほうがいいのではないかと思います。私は時間がかかるけれども、これが一番有効な力強い市民の後押しができる方法だなあと思って見てるんです。実際には、最初の人に写真だけやって何になるのかと思ってたんですけど、結構アンケートなんかを見ましたら、市民の関心が高まりつつある。焦らなくてもいいと思います。もういっぺん、次のステップに行ってみて、そして市民の意見をくみ上げて、それを行政の方向に持っていく方が、結果的には一番確実で、正しい方向だと思いますので、景観計画をいつ立てなければなんてことはまだ考えんでもいいので、本当の市民の目からどうしようということを引き上げるのが、次の段階だと思います。いろいろとみなさんが自己主張して下さっていますので、この次はどうしようという働きかけを上手に持っていくということだと思います。決してこれで遅いことはないと思います。それから、その成果を得られたらということとはすごいことだと思います。</p>
委員	<p>景観法については、僕も多淵先生と全く同じ意見です。阪神間は景観の先進地なわけですよ。僕自身も、神戸市をはじめとして伊丹市もこの川西市も、いろいろと御努力頂いて、いろいろとお手伝いさせて頂いて頂いています。景観法なんか天から降ってきたような話でしてね。景観団体、景観計画というふうにする必要はさらさらないと思う。伊丹市さんなんか、ずいぶん先走りされたなあというのが正直な感想で、僕の同級生の大学の教授なんかと一緒に、阪神間の景観を一緒に作ってきたという気がありまして、本来は条例で良いはずのものなんですよね。ですから、よもや川西市さんが景観地区を都市計画で定めるなんてさらさら思っていない。そんな必要、僕は無いと思っています。そこまでの強烈な都市計画をする必要はなくて、景観協定か景観協議会で景観調整ができれば、もう恩の字やということなんで、今</p>

委員	<p>までのままでいいんじゃないかと私は思います。</p> <p>ただ残念ながら川西は、景観地区として守らなければならない地区はちょっとないですね。例えば出石なんかは、ようやく重要案件になりましたが、ああいうところをバサッと切っていくことは、ものすごく作りやすいと思うんですね。市民の目で実際見て、田舎風景は残しておこう。しかし、いろんな資本が入って潰れそうだというふうな時は、これを使ったらいいと思いますね。これをいちいち市民と一緒に検証する作業が、来年度だと私は思います。</p>
議長	<p>先生がおっしゃられるように、机上では何も有効性がない。ただ制度として使えるものは使っていけたら、せつかくの予算で保存できるものは、保存できたらいいなあと。その為の予算で、市民のご意見をはかっていって、我々が計画を作って、うまく法で使えるものがあれば。景観地区も必ずしも定めなければならないとはなっていないので、必要なだけうまく使っていければというふうには思っています。</p> <p>ということで、だいたいの話をまとめてもよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>今、作品展、絵画展とか、ちょうどそれを考えていらっしゃるんですが、それを3年計画ぐらいでやることになった時、ワークショップに参加できない方とかいますよね。時間的とか。私は時間的なものが気になって。ぴったりと合えば行きますけど。そういう時に、3年先でも1年先でも計画を全部集めて可能かどうかわかりませんが、「第1回わがまち再発見フェスティバル」をみつなかホールとかで、小・中・高・幼稚園にも働きかけて、その子たちの作文を発表するとか、舞台を作るとかやってみては。細かいことは、いろいろと思いつきがあるわけですけど、3年計画ぐらいでまとめて「第1回わがまち再発見フェスティバル」みたいにして、音も入り、舞台も使い、ブースも使いみたいな。そういうのが可能であれば、一般市民でそれぞれ関心のあるところだけで寄って、川西市民が何人いるとか集めなければならないですが。アンケートで600～700人であれば、もっともっと開くのですが。</p> <p>1つにまとめたものを2年後とか3年後とかに、ワークショップの結果にまとめて、1回でポンとやらないと。こつこつとやっていくと、「またやって」「またやるよ」、みたいになる。市をあげて、「こんなことやってる」とか、「こんなこと知ってる」とか、「うそ本当コーナー」とか、なんでもいんです。ペイントがビデオで見られたりすると、こんなこともやってるんだなあっていう意識に訴えかける。そんなものは、その人たちが実際やって知っていたかかないと。知らない人ばかりだともったいない気がします。わがまち再発見ぜひ頑張りましょう。</p>

議 長	<p>これで2年やったでしょう。3周年、5周年、それこそ一つの区切りで。みなさんはいいと思うところを内緒で撮ってる。それを少し大きな電子写真にするとか、それを飾ってみなさんに見ていただくとか、大勢を集めてやるようなイベントをちょうど5周年ということでやっていただけたらと思います。まあ予算は単年度でしょうけど、なるべく予算を使わずにできるようなことを考えていただいて。</p>
委員	<p>計画したり動いていただくのに、市民の有志の方の参加協力を得ながら。</p>
議 長	<p>他に、ございませんか。 それでは、皆さんのご意見も出尽くしたようでございます。 まとまりがないかもしれませんが、こういうような方向でこれからも動いて頂くということをお願いしたい。 以上で平成19年度第1回川西市都市景観形成審議会を終わらせていただいて、よろしゅうございますか。 それでは、終了ということにしたいと思います。事務局進行をお願いします。</p>
事 務 局	<p>貴重なご意見等ありがとうございました。今後、委員の皆様のご意見を参考にしながら、景観情報を活用をし、景観まちづくりをやっていければと思います。 それでは、平成19年度第1回川西市都市景観形成審議会をこれで終わらせていただきます。 本日は、大変お忙しい中、誠にありがとうございました。以上で終わらせていただきます。どうもありがとうございました。</p>